



馬縹泊遺跡は珠洲市馬縹町に位置し、海岸から南に約 100 m離れた古代の製塩遺跡です。調査は主要地方道大谷狼煙飯田線の拡幅工事に際し行われました。

古代では土器に濃縮させた海水を入れ、煮詰めることで塩を作ります。今回の調査で、当時調査区まで広がっていた岩石海岸を利用した製塩炉を 5 基検出しました。それぞれ直径 0.4 ~ 0.8 m と小さく、炉に使用する際に岩石の上に貼った粘土も薄いため、小規模で短期間の製塩活動で、煮詰める容器が土器から鉄釜へ移行する 10 ~ 11 世紀にあたりと考えられます。さらに近世の塩田造成面も検出し、奥能登の伝統産業である塩づくりの歴史の一部を明らかにできました。

なお、調査において地域の方々には多大なるご協力をいただき、また温かく見守っていただきました。能登半島地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。



R5 発掘調査

たくだうわのやまいせき 宅田上野山遺跡 (後半調査) [輪島市]

宅田上野山遺跡は、輪島市街地南方の台地上に位置します。本紙 74 号で紹介した令和 5 年度前半の調査では、鳳至郡衙（古代の役所）で郡司を務めた豪族の居宅（豪族居館）と推定される古代（7 世紀末～9 世紀前半頃）の掘立柱建物群などがみつっています。

年度の後半（秋以降）はそこから東に約 300 メートル離れた場所において 12 月まで発掘を進めました。新たな調査地では全般に近代以降の開墾や土取りの影響が大きく、遺構が良好に保たれているとはいえない状況でしたが、調査区の中央南側を中心に小規模な掘立柱建物を数棟確認することができました。

出土遺物に恵まれず時期の特定に難しい面もありますが、前半調査区と同じく古代の建物とみられます。ただし、その規模や配置、さらには東方の台地下に広がる河原田川沿いの水田域を意識した立地などから、有力者の居宅とは性格を異にする一般的な集落の一角と考えられます。



調査地の遠景（東から）



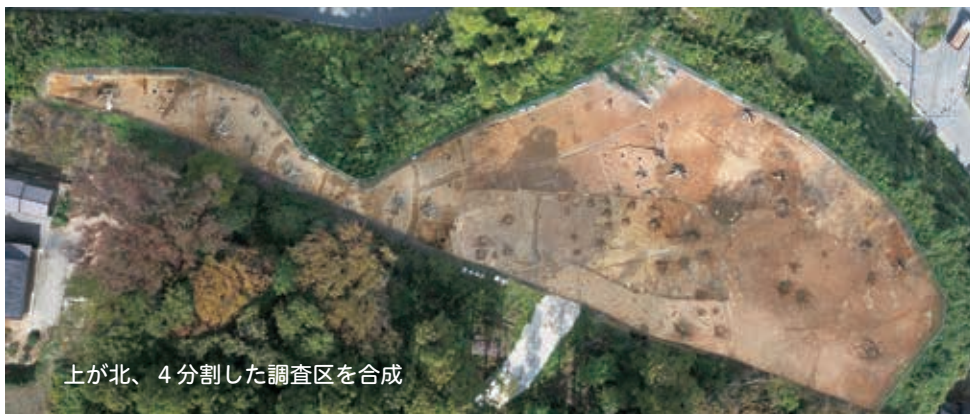
河原田川流域を望む（西から）



掘立柱建物群の柱穴（西から）



発掘調査の様子



上が北、4 分割した調査区を合成

調査区全景

R5 発掘調査

ふるこ こくぶ いせき の とこくぶんじあと ななおし
古府・国分遺跡、能登国分寺跡 [七尾市]

古府・国分遺跡は、能登国分寺の北から西側に建物群がひろがり能登国分寺と密接な関連のある遺跡として知られています。大谷川がつくりだす扇状地形末端に位置し、西側に流れる砂田川が低湿な地となっていると思われます。

調査は、能登歴史公園整備（国分寺地区）工事に伴うもので、円弧にデザインされた水路部分が発掘対象でした。そして調査区が二つの遺跡の範囲にまたがることとなるため、遺跡名を併記しました。

1区は北側の水路で、幅1m強のとても狭い調査区です。柱穴や幅20cm程度の細い溝が見つかりましたが、遺構の様子を知ることが難しかったです。

2区は南側の水路で、幅2m強の調査区です。旧水田の削平で砂田川に向かって3段の平坦面があり、上2段に掘立柱建物と井戸を確認しました。井戸は浅くて井戸枠がなく、柱の構造体を附属するものがある溜池のような井戸と考えられます。出土遺物から12世紀ごろの遺構と考えられますが、能登国分寺にかかわる遺構や遺物は見つかりませんでした。



調査区と能登国分寺跡



1区の完掘（北側）



2区の溜池のような井戸



2区の掘立柱建物の柱穴



2区の井戸施設に付属する柱



2区の野井戸

『高地性集落』 —日本海沿岸地域を中心として—

環日本海文化交流史調査研究事業

石川県をはじめとした日本海沿岸地域の歴史的特質を明らかにするため、テーマを設定し、各地域の方々と調査・研究、交流を図る事業です。令和6年2月21・22日に、24回目となる研究集会を開催しました。

近年様々な角度から研究が進められている「高地性集落」をテーマに、令和5・6年の2ヶ年で、日本海沿岸地域における高地性集落の様相を探っていく予定です。今回の研究集会では、北陸4県に加え、近畿北部（丹後地方）、山陰（鳥取県、島根県、山口県）、九州北部の共同研究者から、各地域の発掘調査でわかってきた高地性集落の特徴などについて報告がありました。1月1日の能登半島地震発生に際し、研究集会の開催についても検討されましたが、多くの皆様のご協力により開催することができました。



研究集会1日目 会場の様子

研究集会1日目は、九州北部から福井県までの各地域から報告がありました。高地性集落というと、教科書などでも戦いのための“防御的集落”とされてきましたが、各地の報告や1日目のまとめの討論の中で、様々な機能がある点が指摘されました。自然災害や生業との関連も含め、「高地性集落」という言葉にとらわれすぎずに、高所にある集落が、その地域の中で他の遺跡とどのような関係性をもっているのかを探っていく必要性が確認されました。



質疑応答と1日目のまとめ

2日目は石川県、富山県、新潟県の報告が行われました。低地から集落までの高さ（比高）と標高をグラフ化し、集落の立地を相対的に読み解く試みが報告され、各地域の遺跡でもグラフ化を試みようかと話されました。また報告後に、同志社大学の若林邦彦氏から「長期変化からみた高地性集落顕在化の条件」と題してご講演いただきました。高地性集落のこれまでの研究を振り返るわかりやすい解説、奈良盆地や淀川水系の大阪平野を例に、弥生時代が進むにつれ丘陵上へ居住エリアが拡大していく様子の紹介など、調査事例を元にした興味深いお話しに参加者も熱心に聞き入っていました。また、降水量の変動や水田経営などと集落のあり方がどのように関連しているのか、高地性集落を考える上で参考になるお話しを聞くことができ、来年度へ向けての検討課題が見えてくる、意義深い研究集会となりました。



研究集会2日目 講演中の若林邦彦氏

R5 情報発信

発掘報告会『いしかわを掘る』

令和5年度に県内各地で行われた発掘調査の中から、注目される遺跡を紹介する発掘報告会「いしかわを掘る」を令和6年3月10日（日）に石川県地場産業振興センターの新館コンベンションホールで開催しました。

七尾市矢田遺跡の報告では、弥生時代後期から古墳時代前期とみられる柱間が9mもある大型建造物が注目されました。野々市市末松廃寺跡は、史跡再整備に伴う発掘調査の最終年度にあたるため、令和元年度からの成果をまとめて報告しました。輪島市宅田上野山遺跡は、掘立柱建物群が確認されたことから、在地有力豪族の居館の可能性を指摘しました。金沢市涌波遺跡（土清水塩硝蔵跡）は、史跡整備に伴う発掘調査であり、辰巳用水から「搗蔵」への水路や「イ黄カチバ」と呼ばれる建物が確認されました。金沢城跡は、令和6年能登半島地震による石垣の被災状況を報告しました。

なお、予定していた七尾市能登国分寺跡附建物群跡の報告は、能登半島地震の影響により中止となりましたが、代わりに同遺跡の発掘成果を動画で紹介しました。報告会の当日資料は石川県埋蔵文化財センターホームページからダウンロードすることができます。



会場風景

お知らせ 令和6年度の発掘報告会は、会場を石川県立図書館に移して開催する予定です。

R5 情報発信

石川デジタル・ミュージアム・ネットワーク

「石川デジタル・ミュージアム・ネットワーク」は令和5年度に、金沢大学資料館を中核とした金沢市周辺の地域博物館6館が連携して開設したデジタルミュージアムで、当センターも参加しています。

ホームページで参加館のデジタルアーカイブ資料が閲覧でき、当センターは石川県内から出土した縄文時代～近世の代表的な出土品41点を公開しています。

各館の収蔵品の「見える化」を実現し、石川県内の多様な博物館資料を、スマートフォンやパソコンで気軽に検索、アクセスしていただければと思います。

これを機会に、地域の多彩な文化資源に触れて、実物を見て各館へ足を運んでください。

【連携機関】

金沢大学資料館 / 石川県立自然史資料館 / 石川県西田幾多郎記念哲学館
 (公財)石川県埋蔵文化財センター / 羽咋市歴史民俗資料館
 野々市市ふるさと歴史館・野々市市デジタル資料館



石川デジタル・ミュージアム・ネットワーク
<https://idmn.w3.kanazawa-u.ac.jp>



| 石川県埋蔵文化財センター | | | | |
|--------------|-------------|------|--------|--------------|
| 品名 | 所在地 | 年代 | 出土状況 | 備考 |
| | 野々市市ふるさと歴史館 | 縄文時代 | 縄文時代前期 | 野々市市ふるさと歴史館蔵 |
| | 野々市市ふるさと歴史館 | 縄文時代 | 縄文時代前期 | 野々市市ふるさと歴史館蔵 |
| | 野々市市ふるさと歴史館 | 縄文時代 | 縄文時代前期 | 野々市市ふるさと歴史館蔵 |
| | 野々市市ふるさと歴史館 | 縄文時代 | 縄文時代前期 | 野々市市ふるさと歴史館蔵 |
| | 野々市市ふるさと歴史館 | 縄文時代 | 縄文時代前期 | 野々市市ふるさと歴史館蔵 |

R5 古代体験

弥生のはたおり

晴天の穏やかな日となりました令和6年2月25日(日)、13名の受講者を迎え、「弥生のはたおり」講座を行いました。

日本での布作りは歴史が古く、縄文時代にはすでに植物の繊維^{せんい}を材料に布を編んでいた(編布)とされています。そして、弥生時代になると原始的な織機(原始機)を利用した布作りが始まりました。その違いは、タテ(経)糸とヨコ(緯)糸を交差させながら織り上げていくという点です。

本講座では、その原始機を用いて布織りに挑戦してもらいました。製作についての説明とデモンストレーションを行った後、各自での作業が始まりました。

最初は勝手が違うためか、悪戦苦闘している様子が見受けられましたが、繰り返しの動作になると、次第に調子良く織り進め、最後は皆満足できる作品に仕上がっていました。

タテ(経)糸とヨコ(緯)糸の色を自分の好みで選択したこともあり、出来上がったオリジナルの布を手にした際の満面の笑顔が印象に残る1日となりました。



デモンストレーション



実践



完成

R5 古代体験

いろ・色・まが玉づくり

令和6年3月11日(月)～3月24日(日)の期間、体験工房で「いろ・色・まが玉づくり」を行いました。

今回のまが玉作りは、毎年3月の恒例イベントとして行われたもので、古代の装身具づくりの技術について理解することを目的とし、主に縄文時代～古墳時代に作られていた「まが玉」を製作しました。

この体験では、普段行っている「まが玉づくり」体験とは異なり、3色(黒・ピンク・白)の石材から好きな色を選んで、通常より大きな“特製まが玉”を作りました。普段と違うまが玉作りを体験しようと、小学生から一般の方まで、たくさんの方が体験に訪れ、会場はにぎわっていました。

参加した体験者は、いつもより大きめの石材を削るのに苦労していましたが、一生懸命に石を削り、皆さん素敵な作品を仕上げていました。



親子で体験



友達と体験



削ったまが玉を披露

R6 古代体験

団体体験・施設見学

当センターでは、県民の皆様が気軽に郷土の歴史を学んだり、埋蔵文化財について理解を深めたりする機会を提供するために、施設見学や体験学習を無料で実施しています。

施設見学では、バック・ヤードと言われる普段見ることの出来ない出土品の整理、保存処理等の作業現場を見学し、出土した土器等が復元される過程を具体的に学ぶことができます。ただし、この場合は、団体予約が必要です。

予約無しで訪れても、県内の出土品をテーマごとに鑑賞できる展示室を見学することができます。他にも古代体験ひろばにある縄文、弥生、奈良の各時代の復元住居や小松市から移設した古墳の埋葬施設等にふれることで先人の知恵や技術、ふるさとの歴史を知ることができます。

また、見学だけではなく、「まが玉づくり」「火おこし」「縄文アクセサリーづくり」等、色々な体験メニューが用意されており、これらの体験も予約無しで気軽に楽しめるようになっています。

なお、団体予約の場合は、見学コースや体験学習との組み合わせ、時間配分等、臨機応変に対応しています。学校や地域行事、公民館のイベント等でご活用の際は、お電話等でご連絡ください。



見学：土器の組み立て作業



見学：収蔵展示室



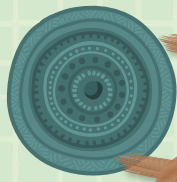
見学：収蔵庫



体験：まが玉づくり



見学：古代体験ひろば



まいぶん日誌

令和6年
(2024)

3月～6月



3月

令和5年度 発掘速報パネル展



発掘報告会「いしかわを掘る」



学習講座「鉄器づくり」



4月

団体見学開始



手形・足形づくり



5月

学習講座「縄文土器づくり」



出前考古学講座



出前考古学教室



6月

「縄文土器づくり」野焼き



学習講座「弥生土器づくり」



学習講座「弥生土器づくり」



「縄文土器づくり」作品展示・返却



「手形・足形づくり」作品展示・返却

